

第2回河内長野市の学校における食育及び 中学校給食調査検討委員会議事録（要約）

平成21年10月23日(金) 午後2時30分

○事務局

定刻となりましたので、ただいまより、第2回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催させていただきます。

それでは、議長であります委員長にバトンタッチさせていただきます。
委員長よろしくお祈いします。

○委員長

皆さんこんにちは。

それでは、第2回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催いたします。

まず、最初に前回の会議において、聞きもらした点やご質問等ございませんか。

ないようですので、本日の案件に移りたいと思います。

事務局が策定した資料等をもとに調査検討を行いますのでよろしくお祈い致します。

○事務局

それでは、資料に基づきまして、ご説明申し上げます。

お手持ちの「第2回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討会議」をお願いします。

資料P1について説明

別添の資料1は、長野小学校のもので、ここに長野小学校の委員が居られますので、委員に食育の全体計画について、お話いただければありがたいと思います。

○委員長

委員、お祈いできますか？

○委員

「別添資料1 長野小学校の食に関する全体計画」について説明

○委員長

委員ありがとうございます。

今、委員より、長野小学校の食に関する全体計画について、ご説明をしていただきましたが、事務局の説明及び委員のご説明について、何かご意見、ご質問ございませんか。

○委員

小学生の場合、母親が食生活の実権を握っており、母親によって、その子の栄養状態などが左右されると思うのですが、子どもが食に興味を持って、自分で調理すると、中学、高校に行っても、知識があれば、自分で簡単なおにぎりを作ったり、弁当を作ったりすることができるので、いきなり、中学生になって、作りなさい言っても無理なことです。小学生のうちから、このように生活に密着させて、学校が授業の中で常に食に興味を持たせていただくことはありがたいことだと思います。そういうことが進んでいくと、中学校でいろんな問題が起こっておりますが、変わるのではないのかと思います。母親がすべてするのではなく、子どものほうで興味を持ってやるように、引き出せるように授業をしていただいております、ありがとうございます。

○委員長

指示待ちと言いますか、母親が提供したものを子どもが食べているだけということが、これによって子どもの主体性が出てくる方向になると期待できます。

○委員

私は、今、中学校の母親部会で役をしております。子どもの方も自分でしっかりしていただきたいと思います。今日母親部会に行って聞いたことですが、親御さんもお仕事に行かれており、中学生だからということで、お金も、弁当も持たずに先生に何かもらいに行くという生徒が中学校にいるということを始めて聞いたので、自分で自分のことを考えられる子供に親として育てたいと思います。

○委員長

育っていければと私も思います。

○委員

私は現在中学校で家庭科の教師なので、今の説明でいろんな切り口があることで参考にさせていただきました。指導要領で授業の中できっちりと栄養について教えていくのですが、「みんな何のことですか」という授業の様子です。小学校ともっと密に連絡を取らなければならないわけですが、いろんな教科で出てくることが繰り返すことが、定着することが大事なことだなあと感じました。すごく参考にさせていただきました。ありがとうございます。

○委員

私も小学校で食育に取り組んだことがあります。たとえば、栄養素は5年生の家庭科で初めて学習するのですが、だから、高学年になってからでもいいのではと思っていたのですが、そうではなくて、食べるということはどの子にとっても大事なことで、体を作っていく意味からも、意識づけとして低学年でもうまく働きかければ染み付いてくる。栄養士による栄養指導をしていただいておりますが、栄養素について子ども独自の理解のしかたがあります。子どもが

興味を持って自分の家庭で話をするようになれば、冬休みとか夏休みの休み中にいろいろな献立を考えて来るようにと、宿題ということにしなくとも、子どもに呼びかけておいたら、そんなに多く集まらないと思っていたら、多くの子どもが考えてくるようになりました。

家庭科で学習を始めるのではなくて、低学年からあまり難しくならなくて、楽しく食育を始められると思います。

○委員

今の小学校のいろいろな取り組みを紹介していただいて、中学校でも教科に限らず授業で使っていけるなあと思いました。以前、給食センターの栄養士が中学校に来て、家庭科の先生に協力してもらって、栄養指導していただきました。

中学校家庭科の学習指導要領の中で、限られたところできちっと教えていかなければならないことがありまして、いろいろな教科が重なり、調整しながらしなければならぬ。

○委員長

委員 何か付け加えることはございますか。

○委員

冬休みに、3年生の児童に「我が家のおにぎりの紹介」という宿題を出しました。私は実は遠慮がちな人間なもので、家庭の人にこういうことをしていただくようお願いすることができなりましたが、児童が提出した「おにぎりを作る様子」の写真などを見たとき、みなさんが答えてくれるのだと思いました。学校だけがやっている気になっていましたが、これからも児童とその家庭に食に関するテーマを投げかけて、そしてつなげていくという形で少しずつやれたら、そのことを食育通信に載せればいいなと思います。

みなさん、香川県で始まったお弁当の日をご存知ですか。あれをやりたいなあと私は思います。香川県の小・中学校、全国では600校位、大阪では松原だけだと思いますが、親が絶対手を出さずに、子どもがお弁当を自分で作る。

先日、香川県の校長先生の講演会を聞き、取り組む子ども達の様子が本当に良くて、最初の頃は、親が手伝っていい弁当を持って来る子がおり、中には、子どもが自分で作ってもって来る子がいる。子どもの間でそのことがわかり、2回目は自分で作ろうという気になる子がだんだん増えていき、自分で弁当を作ることがカッコイイという意識を子ども達が持ち始め、だんだん盛り上がっていき、お弁当の日を始めた香川県の小学校は年間6回しかしていませんが、お弁当の日は小学校から中学校に広まり、全国に広まっていく。

香川県では、子ども達が分担して自分で弁当を作って、交換するというところをしており、人に食べてもらいおいしいと言って褒めてもらえればうれしいものです。そこで好き嫌いしたら、作った人が悲しむということを小学生が作

文で書いています。

食べるということが一生ついてくることですから、朝昼晩の三食を食べることが生活のリズムとなります。すべてのとっかかりが食育となると最近思っています。

○委員長

大変よくわかるお話です。中学校の生徒は家庭科の調理実習を楽しみにしていると聞いています。

今の話ですと、今の子どもは何もかも与えられ過ぎていると、昔はそうではなかった。「姉が弟の弁当を作る」とか「兄弟で弁当を作り合う」とか、そういうことをしなければならぬ世の中でした。今、本当に世の中何もかも便利になってきている。そういう面で言えば、元に戻すほうがいいのかも思いません。

○副委員長

私の孫は小学校2年生と幼稚園ですが、孫と夏休みに料理を作ったら、料理に興味を持ち始めました。今はそれでいいなあ思っているのですが、小学校4年生とか5年生になって、それを続けてくればいいのかと思います。大きくなると恥ずかしくなりしなくなります。大きくなっても、お母さんと接してその話ができればなあと思います。

○委員

給食があるなしではなく、中学生になると、自分の中で受験とか学習のほうがかかなり緊迫感が大きく占めており、できる年代ではないと思います。その間に忙しくてできなくても、ここでやっていたことが、食に対する興味というものは消えないから、今後もつながっていくと思います。みんなで食べたことは楽しかったなあということがずっとベースにあると思います。

ありがたいことに、幼稚園においても読み聞かせとか体験などの食育をしておられるから、そのことが小学校につながっていくと思います。

○委員長

小学校の授業参観に参加したときに、先生が児童にお家のお手伝いをしていますかと聞いたら、全員がしていますと元気よく手をあげました。どんなことしているのと聞いたら、味見と答えた。手伝いになるのかなあと思いました。

中学生になると、親は子どもが勉強することに対して甘くなる。普段は子どもに手伝いなさいと言っていたが、試験が近づくと勉強優先となり、お手伝いをしなさいと言わなくなる。

改めて食育の大切さを痛感させていただきました。

貴重なるご意見等をいただきありがとうございます。

食育について、今回はここで一旦終わり続いて、学校給食に移りたいと思い

ますのでよろしくお願いいたします。

それでは、事務局より、資料に基づきご説明をよろしくお願いいたします。

○事務局

P 3（学校給食について）～P 4 及び資料 2・3 について説明

○委員長

学校給食の本市の現状と生徒の食生活について、説明がありましたが、委員の皆様方で何かご質問ございませんか。

無ければ、事務局より、4 ページの中ほどの 2. 生徒・保護者の意見についてご説明をよろしくお願いいたします。

○事務局

ご説明いたします。

P 4～6（2. 生徒・保護者の意見について）について説明

○委員長

事務局よりの説明が終わりました。委員の皆様のご意見等をお伺いいたしますので、活発なご議論をよろしくお願いいたします。まだまだ、ご意見がございましょうが、次に移らせていただきます。事務局より説明を求めます。

○事務局

それでは、6 ページの給食センターの状況と 7 ページの財政状況及び学校給食の形態について、ご説明申し上げます。

P 6～7（3. 給食センターの状況 4. 財政状況 5. 学校給食の実施形態）について説明

○委員長

事務局よりの説明が終わりました。委員の方々でご質問等ございませんか。

私から、ちょっと伺っていいでしょうか。

中学校ミルク給食の飲用率が平成 20 年度において 14% で、下がっていらっしゃるということですが、始めた当初は何% でしたか。

○事務局

今、手元に資料を持ち合わせておりませんので、なんとも言えませんが、河内長野市では小学校給食が昭和 59 年に開始し、中学校ミルク給食もしており、以前は市からの中学校ミルク給食への補助もあり、飲用率はたぶん 20% 以上だったと記憶しております。

○委員長

わかれば、教えてください。

P3 の生徒の食生活状況調査では、「毎日朝食を食べていますか」、「家の人と普段朝食を一緒に食べていますか」、「夕食を一緒に食べていますか」の項目について河内長野市は平成 19 年度から平成 20 年度にカウントアップとなって

いますが、何かアクションを起こしておられるのですか。先ほど小学校において食の指導があって、食への関心が強くなったことが原因なのではないでしょうか。

答えにくい質問をして申し訳ございません。

○事務局

率が少しずつアップしていることは私たちにとってはありがたいことですが、原因については調査しておりませんが、たぶん先生がおっしゃったように食育に関心が高まっているということだと思います。最近、残食率が年々下がってきている状況であり、これも食育に関心が出てきているのが原因だと考えております。

○委員長

そういうふうを考えるのが妥当だと思います。

委員の方々でご質問等ございませんか。

なければ、その後の他市の状況を含めまして、中学校給食のあり方についても皆様方の思いを足してご意見をいただければと思います。どうでしょうか。

○委員

先ほど、市町村のアンケートの説明で、岸和田市の保護者の意識が他市とかなりの違いがあるということが興味深いです。岸和田市の保護者の希望について、学校給食選択が18%、スクールランチ選択が25%で、他の市より低いのに何か理由があるのか知りたいのですが。

○委員長

そのことに関する情報があればと思いますが。どうですか。

○事務局

先ほど申しましたように、岸和田市はスクールランチをやっておられる。岸和田市の保護者の希望について、学校給食選択が18%、スクールランチ選択が25%という結果となっており、合わせればそこそこの数字になっております。完全給食をしていない場合、スクールランチ選択の数字は上がると思いますが、スクールランチは冷たいという理由などで敬遠されるため、スクールランチ選択が25%という結果になったと推測されます。

○委員長

子ども達はどこの市もお弁当希望の割合が大きく、保護者は給食、スクールランチの希望の割合が大きいのに、岸和田市では保護者の弁当選択は54%で他市との違いがあります。よろしければ、そのことに関する情報が手に入ればありがたいです。

○委員

岸和田市調査結果のP6の自由意見で「スクールランチの内容、味、量を考えてほしいという」意見が圧倒的に多い。値段が高い割に量などが少ないと推測されます。その意見が159件もあり、第2位が「スクールランチは価格が高い」高いのは手が出ないと思います。どうでしょうか。

○委員長

そのことも参考にして分析をしてください。

○事務局

わかりました。次回、資料を提出できるようにさせていただきます。

○委員長

委員の方々でこのことに関して何かございませんか。

この調査結果を見れば、市によって差が少しありますが、子ども達はどこの市もお弁当希望の割合が大きく、保護者は給食、スクールランチの希望の割合が大きいです。

○委員

私は受け持つ教科で、この2学期に私の中学校で1年生から3年生までの13クラスで調査したのですが、そしたらこれと同じ結果が出ました。やはり弁当希望が圧倒的に多かった。弁当と給食のいいところ、悪いところを生徒に書かせて最後どう思うと聞いたら、1年生は6年間給食を食べてきたので、すごく弁当がうれしいので弁当の希望は多い、2年生は弁当が多い、3年生は少し意見が違って、弁当の日、給食の日の両方があればいいという意見があります。親に忙しい思いをさしたという感謝の気持ちが出てきて給食を希望する生徒もいる。

いろいろな意見もありますが、全体としては弁当がいいと言う生徒が多い。

○委員長

昔、私は中学校で教師をしておりました。親の愛情を弁当でという文化が大阪の中学校でありました。

中学校給食の実施率が全国平均で約80%、大阪は最下位の7.7%ということで、少しずつ率がましになってきている。やはり、中学校の先生の思いがうまく伝わっているのかなあとと思います。子ども達が親の愛情をたっぷり受けることに呼応しているのではないかと思います。

しかし、今時代が変わってきていますので、そのことばかり言っておれませんので、他の市のある保護者に言わせれば、朝食と夕食で愛情をたっぷり注いでいますので、昼食は給食でお願いします。こんな意見もあります。このことは、この表に表れています。大阪の弁当という文化もさらに変わってきていると言えます。

学校の現状を教えてくださいましてありがとうございます。

その他、ご意見はございませんか。

ないようですので、6ページ以降の「給食センターの状況」をお願いします。

○事務局

6ページの「給食センターの状況」について説明

○委員長

ただいま、事務局の説明がありましたが、委員の皆様方で何かご質問ございませんか。

ありませんので、次の「財政状況」と「学校給食の実施形態」の説明をお願いします。

○事務局

7ページの「財政状況」と「学校給食の実施形態」について説明

○委員長

ただいま、事務局の説明がありましたが、委員の皆様方で何かご質問ございませんか。

河内長野市にも限らず、どこの市も財政状況が厳しいと聞いております。

質問がないようですので、次の「給食の意義と課題」と「弁当の意義と課題」の説明をお願いします。

○事務局

「給食の意義と課題」と「弁当の意義と課題」について説明

○委員長

ただいま、事務局の説明がありましたが、委員の皆様方で何かご質問ございませんか。

他市の状況も踏まえながら考えていただければと思います。

世の中の流れとして、食育も法整備もなされましたが、生活習慣病への健康維持を、若いときから栄養のバランスを考えるとということが世の中の流れである。

そういう視点からも食ということが大変大事だということが先ほどから話で浸透してきている。

食について考えることがグッドタイミングだと考えます。

真剣に食について考えることは子ども達の人間作りにとって大切なことだと思います。

コンビニと携帯の便利さが人間を駄目をしているということですので、栄養を無視して味の濃いものを食べ続けるとか、あるいは粉ものばかりを食べ続ける子どもとか、あるいは同じものばかりを食べ続ける子どもとか、あるいは朝ごはんをぬく子どもがおり、早寝早起き朝ごはんという、教育の視点から学力との関係を指摘している学者もおります。

食生活をきっちりすることが学力向上につながるということが、最近の学力調査の結果でも、そういう視点で、食と関わってのマナーとか食習慣とか日常生活についての意見が頻繁に発信されていると思います。

そういう面でこの所をどうしたらいいのか、みんなで一緒に食べる給食あるいはスクールランチにせよ、家庭で弁当を作ってもらえない子をどうするのかも含めた時には、パンに頼っている子どもも現実にいるわけで、そういうことも慮って、こうしましょうという前向きな意見をいただければと思います。

どうぞお願いします。

○副委員長

こうしましょうという結論は私の中ではなかなか出ないのですが、先ほどの話の中で、朝と夜の愛情で充分足りていて、昼は給食で充分足りるのではという思いもあります。昼の弁当もパン代も持たせられない、何も食べない。そうになると、給食で子どもに充分栄養を与えられると思います。全く違う考え方で、小学校で給食費を払わない人がいますね。その人が中学校でも給食費を払わないという問題が出てきてきます。小学生の実態として、おかあさんが朝も晩ご飯を作らないで、給食に頼って、一日一食という子どもいます。そうになると、中学校の給食があると、それに頼ってしまうという面もあります。いろんな面を考えますと、給食の意義と課題、弁当の意義と課題、どちらがいいのかわからないです。

○委員長

いいところをとっていければいいと思いますが。

○委員

やはり、小学校の場合は、給食だけしか食べることができない子どもには必要なのですが、中学校は、ある程度自分で作ることができたり、考えたり、選んだりできる年齢になってきていると思うので、そこはいろんな教科であるとか、いろんなサポートはいると思いますが、給食だけしか食べることができない子どもへのサポートはしていないし、中学校では、自分でやりなさいという形を取っていくべきだと考えます。

○副委員長

パン代を親からもらい、それを貯めて、お昼を食べない子がいるとという話を聞いています。

小学生はそこまで考えないが、中学生ともなると知恵が働いて、ダイエットのために食べない子もいます。

○委員長

中学生であるという発達段階を考慮する視点は大事だと思います。そういうことができる発達段階であると踏まえる必要があります。

お互いに情報も交換し合いましょう。また、本日十分にできなくても次回までに情報集めをしていただければと思います。何かございますか。

○委員

もし中学校において、学校給食を実施するとしても、小学校でやっているような給食指導が中学生を相手に想像できないです。まだ、小学生に早いうちに、好き嫌いをなくしましょうとかいろいろなことを子ども達に働きかけて、少しでも食べることができるようになったことで、意義があると思います。やはり高学年になるにつれて、個人差が大きくなって指導はしていますが、中学生に同じ物を食べて皆さん残さないようにしましょうということが想像できないです。

もし学校給食を実施するとしても、小学校でやっているような同じ物を食べるような給食を中学生にあてはめるのは無理があると思います。

○委員長

中学生であるという発達段階では、嗜好が非常に難しくなっている。そして多様化してきている。人によって味の好みも量も格差が出てくる。そういう課題も先ほど出ていました。

○委員

食育に関して、自分の体ことを自分で考えなさいという指導は大事だと思います。

○委員長

今日のところはこれぐらいにさせていただいていいでしょうか。

まだ、方向性も見えていない状況ですが。委員の皆様方には次回に議論を継続していただきます。そして新たなテーマを提供していただくことでお願いします。

○事務局

はい、わかりました。

○委員長

次回は11月27日の午後3時に開催します。

本日はありがとうございました。